



9月23日（土） 晴れ。

丹波の森公苑の里山も実りの秋を迎え、今日は栗やお米の収穫を体験する一日でした。

まずは、公苑のドングリの森に出かけ、カシワ、コナラ、マテバシイの実を拾いました。

「マテバシイ」の実は食べることができると角谷森づくり活動アドバイザーから聞いてビックリ。

次に、栗園に移動し、栗拾いを体験しました。落ちている栗を靴で動かないように固定し、火箸を使って、イガをはずし、中身を取りだしました。



今年は、夏に猛暑が続き、栗の実が落ちだすのが例年より遅かったですが、1人当たり10個程度の栗の実が収穫できました。

そのあと、焚火体験と茹で栗をつくりました。焚火は里山で集めた枯草やヒノキの枝、まきを燃やしました。栗は飯盒に入れて、約40分程度塩ゆでして、いただきました。



お昼は、調理サポーターが料理をしてくれたオムライスと野菜スープをいただきました。

午後からは、塾生が5月20日に田植えをしたもち米の稲刈りをしました。

杉本自然体験活動サポーターから鎌の使い方や稲の持ち方の指導を受けて、チャレンジしました。初めのうちは、うまく刈り取ることが出来ませんでしたが、慣れてくるとザックザックと手際よく刈ることができました。刈った稲は藁で縛って、リヤカーで稲木のある里山まで運びました。



稲木かけでは、交代で稲木に上り、下から刈り取った稲の束を放り投げてもらい、上手にキャッチして、稲木にかけていきました。次回の縄文の森塾（10月14日）まで、天日干しをします。

